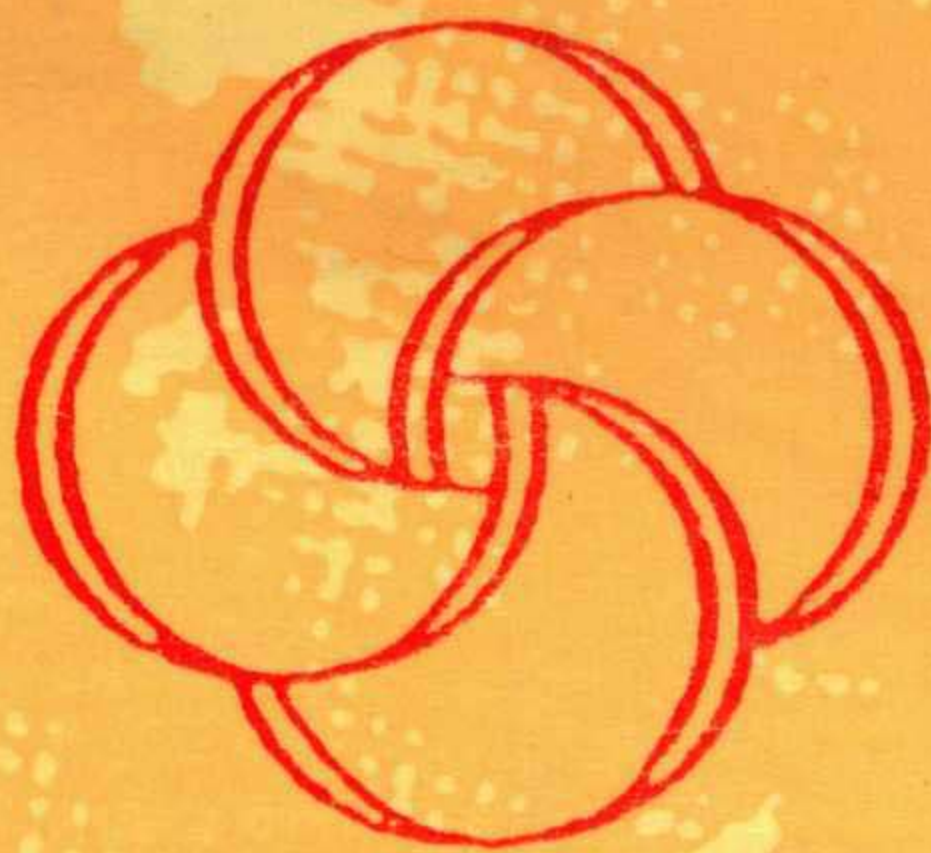


中央电视台教育节目用书

中级电视讲座

标准日本语

补充教材
(短剧)



人民教育出版社

中级电视讲座

标准日本语

补充教材

(短篇)

人民教育出版社

(京)新登字113号

中缝电视讲座
标准日语
补充教材
(短 剧)

徐义鸣 编

人民教育出版社出版

人民教育出版社发行部经销

人民教育出版社印刷厂印刷

开本 850×1168 1/32 印张3.5 字数 53,000

1992年8月第1版 1992年8月第1次印刷

印数 1—200,350

ISBN 7-107-10983-9
G·2828 定价 1.50 元

前 言

日本国际教育情报中心和中国中央电视台、人民教育出版社在《标准日本语》初级电视讲座的基础上,再次热情合作,将《中日交流标准日本语(中级上下册)》拍摄成中级电视讲座节目。

为了使中级日语学习者具有较高的交际能力,电视讲座节目在《中日交流标准日本语(中级上下册)》的正课文后安排了 30 课以日常生活为主体的短剧。我们把这些短剧汇编成补充教材,以方便读者使用。

这些短剧以我国留学生小王和日本朋友的学习、工作、生活、社交活动为主线。通过生动的画面和标准的日语会话,学习者不仅可以提高自己的口头表达能力,还可以进一步了解日本社会。

短剧的编写由中国中央电视台教育节目部《标准日本语》电视讲座节目的编导徐义鸣同志执笔。以贺阳美智子先生为首的日本国际教育情报中心的各位先生及专家委员对短剧作了精心修改,为定稿工作付出了极大的努力。

《标准日本语》中级电视讲座是中日双方友好合作的又一硕果。在此谨向为剧本的编写、定稿、拍摄、后期制作等不辞艰辛、努力奉献的各界人士表示衷心的感谢。

本书责任编辑由人民教育出版社张国强担任。

人民教育出版社外语室

1992 年 6 月 10 日

各短剧所在位置

各短剧均在有关正课文后,列表如下:

册	课 次	课 文	短剧
中日交流标准日本语 中级 上册	第 1 课	こんにちは	1
	第 2 课	王さんの日記	2
	第 3 课	五目ずしの作り方	3
	第 4 课	言葉使い—レストランで	4
	第 5 课	梅雨と日本の家屋	5
	第 6 课	七夕	6
	第 7 课	地震の起こる日	7
	第 8 课	数字をめぐる	8
	第 9 课	夏休みの計画	9
	第 10 课	上野駅で	10
	第 11 课	旅と交通	11
	第 12 课	京都からの手紙	12
	第 13 课	50 億人目の赤ちゃん	13
	第 14 课	鳥になりたい	14
	第 15 课	●小さい物への愛着 *	15
	第 16 课	コンピュータの発達	16
	第 17 课	天気予報 *	0
	第 18 课	高齢化社会	17
	第 19 课	新聞の投書から	18
	第 20 课	日本語と漢字 *	0

册	课 次	课 文	短剧
中日交流标准日本语 中级 下册	第 21 課	火山と温泉 *	19
	第 22 課	贈り物 *	20
	第 23 課	おいしい生活	0
	第 24 課	鶴の恩返し	21
	第 25 課	大陸は動く	22
	第 26 課	植物のにおい	23
	第 27 課	案内状の書き方	24
	第 28 課	腕時計	25
	第 29 課	都市の住宅事情 *	0
	第 30 課	日本人と魚 *	0
	第 31 課	●山国の春, 北国の春 *	26
	第 32 課	ツバメ	0
	第 33 課	先端技術と伝統文化 *	0
	第 34 課	新発明のマクラ	27
	第 35 課	日本人と仕事 *	28
	第 36 課	ミニヤコンカの奇跡	29
	第 37 課	小さな出来事	30
	第 38 課	日本語と国際交流	0
	第 39 課	座談会一話せる喜び	0
	第 40 課	模擬試験	0

说明:

1. 有 * 号者表示由于拍摄的需要,原课文内容有所变动,改动后的文字材料请见附录。部分课文的个别句子、词汇也有适当调整,但不在附录中一一列出。

2. 根据剧本内容的需要,第 15 课、31 课电视讲座的课文标题改动如下:

第 15 課 小さい国の広がり

第 31 課 前線

3. 《标准日本语》中级电视讲座教材由《中日交流标准日本语(中级上、下册)》和本补充教材(短剧)组成。

目 录

前言	1
各短剧所在位置	2

(短剧)

寸剧 1	1
寸剧 2	3
寸剧 3	6
寸剧 4	9
寸剧 5	11
寸剧 6	14
寸剧 7	16
寸剧 8	18
寸剧 9	21
寸剧 10	23
寸剧 11	26
寸剧 12	28
寸剧 13	30
寸剧 14	32
寸剧 15	34
寸剧 16	36
寸剧 17	38
寸剧 18	41
寸剧 19	44

寸劇	20		46
寸劇	21		48
寸劇	22		51
寸劇	23		52
寸劇	24		54
寸劇	25		57
寸劇	26		59
寸劇	27		61
寸劇	28		63
寸劇	29		65
寸劇	30		67

附录:

1. 有变动的课文		68
2. 《标准日本语》中级电视讲座制作人员		102

寸劇 1

田中さんは、旅行会社の社員です。家から会社まで遠いので、朝早く出なければなりません。営業部の課長として忙しい毎日です。

井上：課長、このファクスはこれでよろしいでしょうか。

田中：うん。ああ、ここのところをちょっと直して。はい、これでいい。

井上：はい。どうもこの手の文章は苦手なんです。

田中：最初はだれでもそうだよ。やっているうちに慣れるんだ。

井上：はい。

田中：はい、営業部でございます。ああ、高坂さんか、おはよう。今日どしたの。

高坂：課長、実はタベ子供が風邪を引いたようで、熱を出してしまいました。すみませんが、今日、休ませていただけないでしょうか。

田中：ああ、そうか。うん、母親として、子供のことを心

配するのは当然だが、今日の午後は、新入社員の
歓迎会があるんだよ。

高坂：あ、そうでしたね。

田中：それで、今日一日休みを取られるのはちょっと
……。午後3時までには、一度顔を出してくれない
か。

高坂：はい、分かりました。必ず参ります。

田中：はい、それじゃ。

高坂：失礼します。

寸劇 2

井上：ああ、疲れた。高坂さん、課長がいないうちに
ちょっと休もうよ。

高坂：あっ。

田中：井上君、高坂さん、ちょっと紹介します。今度営業
課に入る山本君です。

山本：山本です。どうぞよろしくお願いします。

井上：こちらこそ。井上です。

高坂：高坂です。よろしくお願いします。山本さんの席
はあちらです。

山本：はい

井上：課長、ちょっと休憩にしましょうか。

田中：休憩？昨日「新入社員歓迎会」での部長の話、忘
れたの。

部長：皆さん、今年の目標を一日も早く実現する ために頑張りましょう。

社員：はい、頑張ります。

井上：ちゃんと覚えていますよ。けれど、今お腹がペコ

ペコなんです。

田中：あっ、もう三時半なのか。15分ぐらい休憩しよう。

井上：はい。

高坂：はい。では、シュークリームを食べましょうか。
ちょうど一人に一個ずつありますから。山本さんもどうぞ。

山本：ありがとうございます。

井上：ああ、おいしそう。高坂さんは気が利きますね。

高坂：あら、おほめに預かって光栄です。

田中：あっ、井上君、明日の出張は、山本君も一緒に行ってもらおうか。

井上：はい、分かりました。山本君。

山本：はい。

井上：仙台に行ったことがありますか。

山本：私のふるさとです。

井上：そうですか、私も仙台の出身です。出張先は仙台ですよ。

山本：それでは、ついでに実家に帰ることができますね。

井上：去年の正月に帰ったきり、ずっと顔を見せていないので、時間があればそうしようと思います。

高坂：この間、主人が仙台へ旅行に行きましたが、とてもいい所だと言っていました。

田中：あっ、高坂さん、お子さんの具合はどうですか。

高坂：ええ、おかげさまで、たいしたことはありませんでした。

田中：それはよかった。それにしても、最近の子供は、体が弱くなったような気がするね。

高坂：はい、困っております。

井上：母親は苦労しますね。

田中：あれ、僕のシュークリームは。

井上：あっ、思わず二個も食べてしまいました。

田中：また井上君のか。

寸劇 3

山本：おはようございます。

高坂：あら、山本さん、おはようございます。いつ帰ってきたの。

山本：夕べ帰ってきました。

田中：おはよう。

山本・高坂：おはようございます。

田中：山本君、もう帰ってきたのか。

山本：ええ。

田中：井上君は。

高坂：まだ来ていません。

田中：まだ来てないの。ありがとう。

井上：おはようございます。

山本・高坂：おはようございます。

井上：ああ、危ない、危ない。もう少しで車に追突されるところでした。

高坂：まあ、気をつけて下さいね。さっきから課長が待ってますよ。

井上：課長、おはようございます。

田中：おはよう。

井上：無事に戻りました。

田中：二人ともご苦労さん。仕事はとつた。

井上：はい、順調に行きました。富士旅行社と交渉して、契約書にまで話が進みました。こちらです。

田中：うん、それはよかった。それじゃ、出張報告書を頼みますよ。

井上：課長、今回の出張報告書、山本君に書いてもらってよろしいですか。

山本：ええっ、私がですか。できるでしょうか。

田中：それもいいな。山本君、君が書いてみたまえ。分からないことは、井上君や高坂さんに聞くといい。

山本：はい、分かりました。

高坂：出張報告書を書くときには、まず始めに出張時をはっきりと書くこと。

井上：次に、仕事の順番をおって書く。たとえば、契約書の提案や富士旅行社の意見、そして、最後に私た

ち二人の意見をまとめる。

山本：はい、分かりました。

高坂：どうですか。やってみると大して難しくないでしょう。

山本：はい。